

地 域 再 生 計 画

1. 地域再生計画の名称

輝き再び！ 豊かな地域資源を結ぶ石東周遊計画

2. 地域再生計画の作成主体の名称

島根県、大田市、邑智郡川本町

3. 地域再生計画の区域

大田市及び島根県邑智郡川本町の全域

4. 地域再生計画の目標

東西に長い島根県のほぼ中央に位置する大田市は、石見地方の東部、出雲地方との接点に位置し、人口は 39,404 人（平成 23 年 1 月 1 日現在）、面積は 436.11 k m²で人と物の交流が盛んな町である。また、大田市の南部に位置する川本町は、人口 3,859 人（平成 23 年 1 月 1 日現在）、面積 106.39 k m²と規模は大きくないが、山陽の拠点・広島市まで 2 時間弱の距離にあり、古来、陰陽の結節点として栄えてきた町である。

本地域は、北に日本海、南に中国山地を擁しており、川本町には中国一の大河で「中国太郎」の異名を持つ江の川が流れている。中国山地は海岸まで迫っており、地形は総じて急峻で平坦地に乏しく、森林が大部分を占めている。

本地域の農業を俯瞰すると、水稻を基幹として酪農、肉用牛の繁殖・肥育、果樹、キャベツ等の園芸作物による経営が行われている。中でも畜産は、県内第 1 位の主要生産地であり、大田市には県を代表する大規模経営体が立地している。また、川本町では機能性食品としてエゴマの有機生産が行われており、エゴマを使った油や卵など新たな特産品づくりへの取り組みも始まっている。

一方、観光資源について見ると、まず特筆すべきは、本地域のほぼ中央にあって平成 19 年 7 月にアジア初の鉱山遺跡として世界遺産登録された石見銀山遺跡である。鉱山跡と鉱山町のほか、銀や物資の搬送・積み出しに利用されていた街道や港等も遺産に登録され、登録のコアゾーンは約 530ha に及ぶ。この周辺は温泉にも恵まれており、東に三瓶、西に温泉津、南に湯谷と、情緒豊かな温泉が遺産登録の核心地域を取り巻いている。

また、東には大山隠岐国立公園に属する三瓶山がある。この自然豊かな三瓶山の麓にはキャンプ場、三瓶自然館、埋没林公園等多くの施設が整っており、四季を通して野外でのレジャーや学習に利用されている。北西は荒磯と白い砂浜が優れた景観を織り成す海岸である。この海岸には国道 9 号が沿っており、一帯は海水浴や釣り等のマリンレジャーに利用されている。このほか、大きさが世界一の砂時計を備えた仁摩サンドミュージアムや、稀少植物イズモコバイモの国内最大規模の自生地もあり、県内外からの観光客が訪れている。加えて地域内では、伝統ある大田市の彼岸市をはじめ、

各地で地域の伝統文化や資源を生かしたイベントが催され、近郷近在から多くの人が集まる。

この石見銀山遺跡の世界遺産登録を機に入り込み客数は大幅に増加し、年間述べ150万人（平成21年、島根県観光振興課調べ）を超えるに至っている。現在、国道9号沿いに山陰自動車道の建設が進められているが、この自動車道が完成すれば県内外の他地域と本地域が高速道路網で繋がり、更なる入り込み客の増加も期待される。

入り込み客に対応するため、宿泊機能の充実等の受け入れ体制づくりを進めるとともに、本地域と国道9号や山陰自動車道を結ぶ道路網の整備や陰陽を結ぶバス路線の改善等アクセスの利便性向上に努めているところであるが、未だ道路網の一部の区間の整備が遅れているため、ゴールデンウィーク等人出が多い時には渋滞が幹線道路にまで及んでいる。また、線形や路面状態が悪く走行に支障を感じる箇所もあり、この渋滞解消や走行困難箇所の解消が地域の課題の一つである。

こういった中、石東地域の農産物や畜産物輸送を効率化し、地域農業の振興や農村環境の改善を図るため、現在大邑広域農道の建設を進めているところであるが、本農道は国道9号や山陰自動車道の朝山I.C（仮称）から本地域へのエントランス道路や観光地間のアクセス道路としての機能も兼ね備えており、その効果発現のため早期完成への期待は高い。また、地域中央に位置する市道川合久利線は、南北に並行する県道・国道を東西に結んでおり、生活路線だけでなく、三瓶山・三瓶温泉と石見銀山遺跡を最短で結ぶ観光路線として整備要望も強い。

このため、広域農道や市道を一体的に整備し、国道・県道等の幹線道路とも連携しながら、観光の核である石見銀山遺跡とその周辺観光地や宿泊施設等を有機的に結ぶ観光ルートを構築するとともに、走行困難箇所を解消し走行の安全性・快適性を確保する。これらにより渋滞のない、ゆとりある安心・快適な「石東周遊の旅」を提供して入り込み客の増加に繋がりたいと考えている。また、農道整備はエゴマの生産拡大やエゴマを活用した新たな特産品の開発にも寄与するものと期待しており、観光振興や農業振興を図りながら本地域の活性化を目指したい。

目標1：主要観光地への移動時間短縮

- ・国道9号、山陰自動車道朝山I.C（仮称）～三瓶山（37分→15分）
- ・イズモコバイモ自生地～温泉津温泉（45分→34分）

目標2：観光地間及び観光地内道路の安全性・快適性の確保

- ・視距不良箇所の解消：三瓶山・三瓶温泉～石見銀山遺跡（4箇所→0箇所）

目標3：農産物の運搬時間短縮

- ・エゴマ産地～養鶏場（95分→75分）

目標4：エゴマの生産拡大

- ・エゴマの作付け面積及び収量（3ha、2t→10ha、7t）

5. 目標を達成するための事業

5-1 全体の概要

国道 9 号、朝山 I.C (仮称) と三瓶山・三瓶温泉を結び、イズモコバイモ自生地や湯谷温泉と温泉津温泉を結ぶ「広域農道大邑線」を整備して本地域の観光地を周遊する道路ネットワークを構築するとともに、エゴマ産地と養鶏場とのアクセスを改善し、大型車輛の輸送時間の短縮を図る。

また、三瓶山・三瓶温泉と石見銀山遺跡を結ぶ「市道川合久利線」の急カーブ箇所を改良し、走行の安全性を確保するとともに、三瓶温泉地内の「市道志学市街線」の舗装面を改修し、走行時の快適性を確保する。

5-2 法第 5 章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を終了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

・市道（市道認定）

川合久利線 : 平成 21 年 3 月 19 日

志学市街線 : 平成 21 年 3 月 19 日

・広域農道

大邑線 : 事業採択を昭和 56 年 4 月 2 日に国より通知を受けるとともに、事業計画については土地改良法に基づく手続きを行い、昭和 56 年 9 月 24 日に確定している。

施設の種類（事業区域）、事業主体

・市道（大田市） 大田市

・広域農道（大田市、川本町） 島根県

事業期間

・市道 平成 24 年度～平成 27 年度

・広域農道 平成 23 年度～平成 27 年度

整備量及び事業費

・市道 3.0km、広域農道 3.6km

・総事業費 1,592,184 千円（うち交付金 796,092 千円）

（内訳） 市道 105,884 千円（うち交付金 52,942 千円）

広域農道 1,486,300 千円（うち交付金 743,150 千円）

5-3 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、達成するため以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

① 社会資本整備総合交付金

島根県は、温泉津温泉内の一般県道温泉津停車場線及び一般県道温泉津港線を平成 23 年度から平成 26 年度に掛けて整備する。

島根県は、広域農道が接続する主要地方道大田桜江線を平成 23 年度から平成 27

年度に掛けて、また一般県道川本大家線を平成 23 年度から平成 27 年度に掛けて整備する。

② 本地域各所で行われている定期、不定期の観光イベントとの連携

周遊ルート沿いでも地域資源を活かした、大小様々な観光イベントが定期、不定期に行われている。春に開催されるイベントが多く、周遊により観光施設だけでなく、これらのイベントや自然の息吹を満喫することもできる。

(大田市)

石見銀山遺跡 梅祭り、天領さん、銀の道ウォーク

三瓶山 火入れ、山開き

温泉津温泉 やきもの祭り

川合町 物部神社の祭り

久利町 朝市、筆供養、小山地区放牧の会

(川本町)

湯谷温泉 弥山荘祭り

川本町谷戸 イズモコバイモ鑑賞会

③ 川本町エゴマ作付け奨励金

川本町の新たな特産品であるエゴマの生産を拡大するため、栽培面積に応じて奨励金を交付している。

6. 計画期間

平成 23 年度～平成 27 年度

7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

計画終了後に、4 に示す数値目標に照らし状況を調査、評価する。また、島根県、大田市等の関係機関で構成する「地域事後評価委員会（仮称）」を設立し、整備状況等の評価・検討を行い、結果を公表する考えである。

8. 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし